

全般季節予報支援資料 3か月予報 2019年8月23日

予報期間：2019年9月～2019年11月 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 出現の可能性が最も大きい天候

9月 北・西日本日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わると見られます。北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見られます。西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いと見られます。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多いと見られます。

10月 北日本日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わると見られます。北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないと見られます。西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見られます。

11月 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いと見られます。東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見られます。北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いと見られます。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見られます。

(2) 確率予報

気温	3か月(%)	9月	10月	11月
	低並高	低並高	低並高	低並高
北日本	20:30:50	20:30:50	20:30:50	20:40:40
東日本	20:30:50	20:30:50	20:30:50	20:40:40
西日本	20:30:50	20:40:40	20:40:40	20:40:40
沖縄・奄美	20:40:40	30:30:40	30:30:40	20:40:40

降水量	3か月(%)	9月	10月	11月
	少並多	少並多	少並多	少並多
北日本日本海側	30:40:30	30:30:40	30:40:30	30:40:30
北日本太平洋側	20:40:40	20:40:40	20:40:40	30:40:30
東日本日本海側	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:40:30
東日本太平洋側	30:30:40	30:30:40	30:30:40	30:40:30
西日本日本海側	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:40:30
西日本太平洋側	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:40:30
沖縄・奄美	40:40:20	40:40:20	40:30:30	30:40:30

予報資料の解釈

● 3か月平均

- 熱帯の海面水温（SST）は、北太平洋は全般に正偏差で、8月9日発表のエルニーニョ監視速報では「・エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態となっている。一方、インド洋熱帯域は海面水温の高い状態が続いている。・今後冬にかけてエルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続く可能性が高い（60%）・インド洋熱帯域の海面水温の高い状態は、今後秋にかけて解消していくと予測される。」としている。インド洋は西部を中心に高温偏差、インド洋東部～インドネシア付近の赤道の南側では低温偏差が予想されている。
- 熱帯の対流活動（降水量、200hPa 速度ポテンシャル）は、SST 分布に対応して、アフリカ～インド洋西部で対流活発で発散偏差。一方、インド洋東部からインドネシア付近では、対流不活発で収束偏差。また、北半球側の熱帯収束帯（ITCZ）は平年より北側で対流活発。
- 200hPa 流線関数は、インドネシア付近の対流不活発に対応して、ベンガル湾の北を中心に低気圧性循環偏差、その下流の日本付近から日本の東海上で高気圧性循環偏差が見られ、日本付近を流れる偏西風は、日本付近から日本の東海上で北へ蛇行。
- 850hPa 流線関数は、インド洋東部で赤道を挟んで南北で高気圧性循環偏。日本の南から日付変更線付近の北緯 20° 付近では低気圧性循環偏差が明瞭。この低気圧性循環偏差には、この付近での海面水温が高いことによる対流活動が活発なこととも対応している。
- 海面気圧は、太平洋高気圧が日本の東海上で北への張り出しが強い一方、日本の南海上への張り出しは弱い。これは、北日本の東海上で上空の高気圧性循環偏差に対応して順圧的な高気圧偏差となる一方、日本の南海上では下層の低気圧性循環偏差が強いことと関連している。また、日本の南海上の低気圧性循環偏の影響で、沖縄・奄美付近は北寄りの風偏差が予想されている。
- 北半球中高緯度の層厚換算温度は、平年より 0.7℃程度高い予想。地球温暖化やエルニーニョ現象の終息後に中緯度帯で高温となる傾向とも整合しており、気温の予報に考慮する。
- 以上から、気温は、偏西風が日本付近から日本の東海上で北へ蛇行して日本付近は暖かい空気に覆われることから北・東・西日本で高い。沖縄・奄美では、下層の北風偏差の影響もあり高温の度合いが一段弱く平年並か高い。降水量は、北日本太平洋側では、高気圧の縁を回る湿った空気の影響で多雨傾向。一方、沖縄・奄美では北よりの風偏差で南からの暖湿気流の流れ込みが弱いことから少雨傾向を見込む。

● 9月

- 熱帯の SST 分布や対流活動、循環場の特徴は、3か月平均とほぼ同様。中緯度帯の気温は全般に高い。
- インド洋東部の対流不活発の影響で西からの偏西風の蛇行が伝わり、日本付近から日本の東海上で北へ蛇行していることと関連して、日本の東海上では太平洋高気圧の北への張り出しが強く、太平洋高気圧の縁を回る暖湿気流が北日本太平洋側を中心に流れ込みやすい。
- 850hPa 流線関数は、フィリピンの東海上からマリアナ諸島付近での対流活発に対応して、日本の南海上で低気圧性循環偏差が見られ、沖縄・奄美付近は、南からの暖かく湿った空気の影響を受けにくい。
- 以上から、北日本太平洋側では、南からの暖湿気流の影響を受けやすく多雨傾向。その周辺の北日本日本海側と東日本太平洋側では多雨の確率をやや大きく見込む。気温は、南からの暖かい空気が流れ込みやすい北・東日本で高く、暖かい空気に覆われる西日本で平年並か高い見込

み。沖縄・奄美は、南からの暖かく湿った空気の影響を受けにくいため降水量は平年並か少なく、気温はほぼ平年並を見込む。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるが、湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- ・ 北日本日本海側、東日本、西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わる。
- ・ 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けにくく、平年に比べ晴れの日が多い。

●10月

- ・ 熱帯の SST 分布の特徴は3か月平均とほぼ同様。
- ・ 引き続き偏西風の蛇行が西から伝わり、日本付近から日本の東海上で北への蛇行が見られる。対応して日本の北から東海上では順圧的に高気圧偏差となり、北日本から東日本の太平洋側では、下層で東よりの風偏差となり湿った空気が入りやすい。
- ・ 850hPa 流線関数は、9月に引き続き日本の南海上で低気圧性循環偏差が見られるが、その程度は9月よりは弱まっており、沖縄・奄美への北よりの風偏差の影響は弱めて考える。
- ・ 以上から、北日本太平洋側では、東よりの風偏差による湿った空気の影響で晴れの日が少ない。その他は全国的に平年と同様の天候。降水量は北日本太平洋側で平年並か多い他は、平年並を見込む。但し、東日本太平洋側では、東よりの風偏差による湿った気流の影響で多雨の確率を大きく、沖縄・奄美では、北風偏差の影響で南からの湿った気流の流れ込みが弱く少雨の確率を大きく見込む。気温は、偏西風が日本付近から日本の東海上で北へ蛇行することや中緯度帯の高温傾向により、北・東日本で高く、西日本で平年並か高い。沖縄・奄美ではほぼ平年並の見込み。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるが、湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・ 北日本日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わる。
- ・ 西日本、沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

●11月

- ・ 熱帯の SST 分布の特徴は3か月平均とほぼ同様。
- ・ インド洋西部の対流活発、インド洋東部の対流不活発に対応して、200hPa 流線関数では、アラビア半島付近で高気圧性循環偏差、ベンガル湾の北で低気圧性循環偏差が見られる。偏西風の蛇行が伝わり、偏西風は日本の西で北へ蛇行し、日本の東で南へ蛇行している。但し、この蛇行については、3か月平均と異なることから割り引いて考える。
- ・ 地上気圧では、日本付近は緩やかに正偏差となっているが平年との隔たりは小さい。
- ・ 以上から、全国的に天候は平年同様を見込む。気温は、地球全体の高温傾向を考慮して全国的に平年並か高い見込み。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

8月（20日まで）の天候経過

太平洋高気圧が本州付近に張り出したため、北日本から西日本では晴れの日が多く、東・西日本を中心に猛暑日の続いた所もあった。一方、宮崎県に上陸した台風第8号や広島県に上陸し西日本を縦断して日本海へ進んだ台風第10号の影響で、西日本太平洋側を中心に大荒れとなった日があった。

沖縄・奄美では湿った空気が流れ込みやすく、台風や熱帯低気圧の影響もあって晴れの日が少なかった。また、台風第9号の影響で8日から9日にかけては大荒れとなった所があった。

気温は、全国的に平年を上回った。降水量は、北日本、西日本太平洋側、沖縄・奄美で平年を上回り、東日本、西日本日本海側で平年を下回った。日照時間は、北・東・西日本で平年を上回り、沖縄・奄美で平年を下回った。

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。